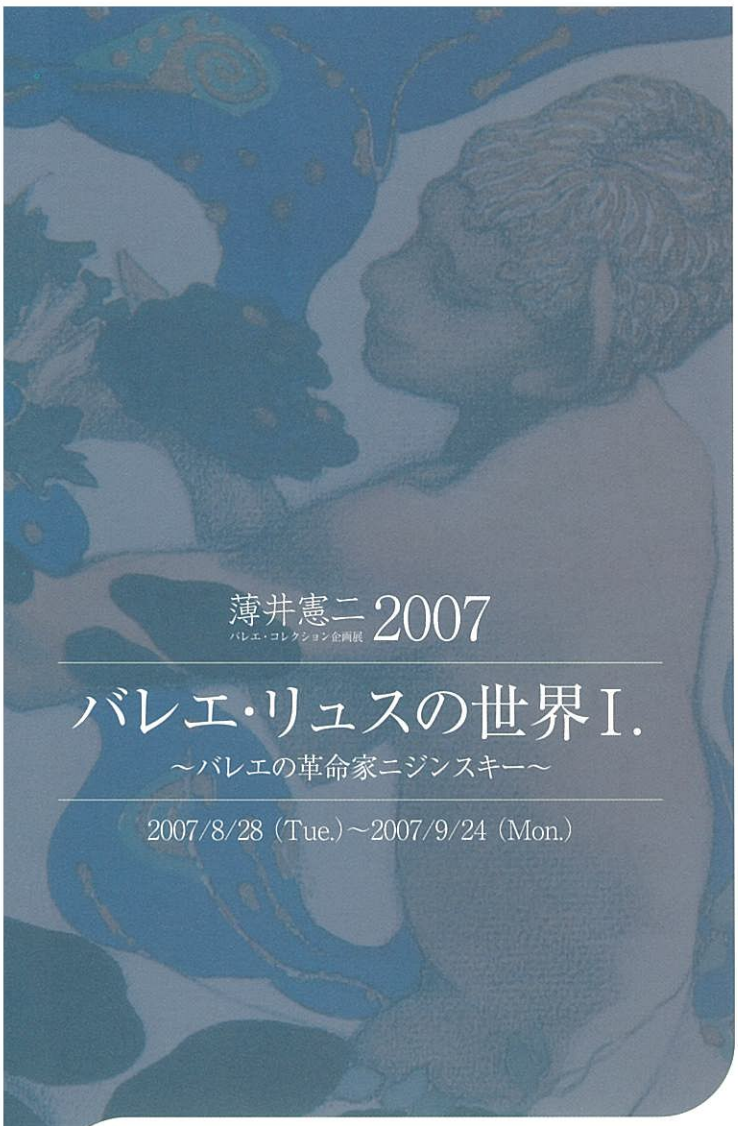

薄井憲二2007
バレエ・コレクション企画展

バレエ・リュスの世界Ⅰ.

～バレエの革命家ニジンスキー～

2007/8/28（Tue.）～2007/9/24（Mon.）

次回予告

薄井憲二バレエ・コレクションVol.8

“ジゼル”を初めて踊ったダンサー ～カルロッタ・グリジ～
（期間：2007/9/26～10/28　於：2階メインエントランス）

薄井憲二バレエ・コレクション企画展2007

バレエ・リュスの世界Ⅱ.
～1920年代とアフター・バレエ・リュス～
（期間：2007/10/30～11/25　於：2階共通ロビー内ポッケ）

◎ 企画・監修　芳賀直子（はが・なおこ／舞踊研究家 薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター）

兵庫県立芸術文化センター　薄井憲二 バレエ・コレクション 担当
〒663-8204 兵庫県西宮市高松町 2-22 tel：0798-68-0223（代表）fax：0798-68-0212

Kenji Usui Ballet Collection

薄井憲二2007
バレエ・コレクション企画展

バレエ・リュスの世界Ⅰ.

～バレエの革命家ニジンスキー～

2007/8/28（Tue.）～2007/9/24（Mon.）

バレエ・リュスの活動は今なお誰も超えることができずにいます。
それはバレエのしっかりとした基礎テクニックの上に積み上げられた芸術の厚み、多様さが誰にもまねすることができなかったからにほかなりません。
今回はそんなバレエ・リュスの最大のスターであり、今も誰もその伝説を越えることができずにいるダンサー、ニジンスキーに焦点を当ててご覧にいれます。彼の跳躍は「飛んだまま降りて来なかった」などといわれるほどでしたが、それだけに留まらない独特の魅力でデビューの晩に文字通り一夜にしてスターとなりました。彼から今の「男性ダンサーを目当てに見に行くバレエ」という見方が始まったと言っても過言ではありません。
そんなニジンスキーの最初の振付作品『牧神の午後』はバレエを根本から破壊しかねない身体は正面、顔は横向きという、それまでのバレエにはない動きを使ったものでした。また続く『春の祭典』ではストラヴィンスキーの打楽器を多用したリズムの複雑な音楽にバレエと全く逆の、足も身体も内側（バレエの基本は脚だけでなく身体を外側に開く動きである）という振付で大スキャンダルとなりました。彼の振付は現在の言葉で言えば「コンテンポラリー・ダンス」に近かったと言えるかもしれませんが、彼ほどの革新的な振付をする後継者は簡単には現れないでしょう。ニジンスキーはスターであったことはもちろん、バレエの革命家でもあったのです。

Hyogo Performing Arts Center

World of Ballets Russes I.

～ Revolutionary Choreographer/Dancer Nijinsky ～

薄井憲二 バレエ・コレクション企画展 2007

バレエ・リュスの世界I.

～バレエの革命家ニジンスキー～

バレエ・リュス / Ballets Russes

（フランス語でロシア・バレエの意味）

1909年から1929年の20年間だけ存在したセルジュ・ディアギレフに率いられた、劇場に所属しない世界初のツアリング・カンパニー。
アール・ヌーヴォーに代表されるベル・エポックから第一次世界大戦を経てモダニズムとジャズの時代（1920年代）まで一線を走り続け、V.ニジンスキー、T.カルサーヴィナ、L.マシーン、G.バランシンといった優れたダンサー／振付家を西欧へと送り出した。
活動前半はオリエンタルで、かつバーバリックな要素が特徴的であったが、20年代に入るとコクトーやピカソなど当時パリの最先端の芸術家を起用したり、母国であるロシアや、戦時中滞在時間の長かったスペイン風の作品が増えるなど多様に変化した。今なおこれを越えるカンパニーは現れていない。

ワツラフ・ニジンスキー / Nijinsky Fomich Vaslav

（ダンサー／振付家）

20世紀最高の天才ダンサー。1889年生まれ、1950年ロンドンにて死去。
マリインスキー劇場付属学校に学び、1907年卒業と同時に劇場付属バレエ団に参加し、活躍。1909年セルジュ・ディアギレフ主宰のバレエ・リュスに参加し、1911年以来ロシアに戻ることはなかった。
バレエ・リュスが1909年にパリに華々しいデビューを飾った日、文字通り一夜にしてスターとなり、多くのファンを獲得した。両性具有的な独特の魅力を放ち、高く美しいジャンプでも知られた。1912年からは振付も手がけ、『牧神の午後』『春の祭典』など革新的な刺激作を4作発表した。1913年巡業の途中で突然結婚したことでバレエ団を解雇される。1918年に精神の安定を欠き始め、生きながら伝説となった。墓地はモンマルトルにある。

セルジュ・ディアギレフ / Diaghilev,Sergei

（バレエ・リュス主宰者、インプレサリオ）

ロシアの芸術プロデューサー。
1908年、芸術の中心地パリで、F.シャンピリアン主役の『ボリス・ゴドゥノフ』の公演を成功させた翌年、バレエ・リュスを率いてパリを再訪、大評判をさらった。次々と作品を生み出し（約65作品）芸術界のトップを走り続けた。時代遅れになっていたバレエに新風を吹き込み、生き返らせた功績は大きい。バレエ団からはダンサー／振付家だけでなく、I.ストラヴィンスキーなどの音楽家も送り出された。また、J.コクトーが芸術家になれたのも、C.シャネルがパトロネスとなり"お針子"から卒業したのもディアギレフゆえであった。
バレエ以外の仕事も幅広く、1899年には高級美術雑誌『芸術世界』を創刊（1904年）。同時にロシア美術展や音楽会でも独自の視点で主宰した。

ニジンスキー振付作品（音楽／美術）

1912年『牧神の午後』（クロード・ドビュッシー／レオン・バクスト）
跳躍が大きな魅力であったニジンスキーが川を飛び越える小さな跳躍のみという振付、ギリシアの浅浮き彫りから思いついたという顔は横顔、身体は正面というバレエらしくない振付そして好色な野獣のような牧神ということでスキャンダルともなった作品。現在もパリ・オペラ座などで上演され続けている。

1913年『遊戯』（クロード・ドビュッシー／レオン・バクスト）
男性一人、女性二人によるテニスの試合になぞらえた軽い恋の駆け引きを描いた作品。スポーツを主題としたほとんど初めてのバレエ作品であり、またスポーツウェアがバレエ作品に登場したのも新鮮なシャレた作品である。

1913年『春の祭典』（イーゴリ・ストラヴィンスキー／ニコライ・レーリヒ）
架空の古代ロシアの民族が春を迎えるために乙女を生贄にささげるという筋をもち、"兵庫県立芸術文化センター"のオープニングでも再現上演された。
バレエの基本である<パ>（脚の動き）を根本から否定しかねない内股で肩をすぼめ、大きな足音で跳ね回る作品は驚きをもって迎えられ、作品の内容だけではなく初演会場の混乱ぶりでも知られる。ニジンスキーが唯一振付に徹し出演しなかった。

1916年『ティル・オイレンシュピーゲル』
（リヒャルト・シュトラウス／ロバート・エドモンド・ジョーンズ）
戦争捕虜となっていたニジンスキーの解放のためにディアギレフは1916年の北米ツアーへ参加させ、振付を任せた。ディアギレフが見ていない唯一の作品でもある。ドイツの民話から着想を得、中世を舞台にしたいたずらなティル主役はニジンスキーが踊り、評判となった。

出展リスト（作品・資料名／分類／年代／ほか）

◆セルジュ・ディアギレフのサイン（サイン／1920年代）
Page of note Signed by Diaghilev, Sergei Pavlovitch/1920's (AU-90)

◆ディアギレフのポートレート（ポートレート／1992年／ミハイル・クルニン）
Portrait of Diaghilev, Sergei Pavlovitch/1992/Mihail Kulunnin/25.4×20.2/Lithograph,paper（PA-06）

◆『コメディア・イリュトレ』誌
（雑誌／1909年5月15日号（1巻10号）／表紙：レオン・バクスト『饗宴』の中の「火の鳥」衣裳デザインによる／パリ）
"Comœdia Illustre" 1909.5.15 (Vol1-No10)
/Bakst/Le Directeur Gerant :M. De Brunoff.Imprimerie.KAPP.Paris/32×25（MG-1028）

◆バレエ・リュス公式プログラム
（プログラム／1910年／表紙：レオン・バクスト『シェエラザード』スルタン衣裳デザインによる／パリ・オペラ座）
Programme Officiel de La Saison Russes a l' Opera/1910/Bakst/Theatre National de L' Opera/32.0×24.7/p.4 (PRBROF-01)

◆バレエ・リュス公式プログラム
表紙カバー薄紙：レオン・バクストによる『青紙』の仏像／表紙：レオン・バクストによる『牧神の午後』デザイン画
（プログラム／1912年／パリ、シャトレ座）
Programme Officiel des Ballets Russes Theatre du Chatlet/1912/Bakst/Theatre du Chatlet /31.8×24.6/p.72 (PRBROF-03)

◆バレエ・リュス公式プログラム
表紙カバー：テオドール・フェドロフスキーによる水彩画
（プログラム／1913年／パリ、シャンゼリゼ劇場）
BALLETS RUSSES /1913/Acuarelle de Theodor Fedorowsky/Theatre des Champs-Elysees /27.3×19.0/p.56 (PRBROF-05)

◆ワツラフ・ニジンスキー（アルミードの奴隷）とアンナ・パヴロワ（アルミード）が踊る『アルミードの館』の記事
（記事/1909年/フランス/カラープリント）
M. Waslaw Nijinsky/ premier Danseur.--Mlle Anna Pavlova/ Prima Balerina du The*atre Impe*rial Marie(Pe*tersbourg)
1909/41.8×34.1/printed in color from "Theatre"（AP-224）

◆ニジンスキーが出演し英国コヴェント・ガーデン劇場で上演される『クレオパトラ』の予告記事
（記事／1911年／英国／プリント手彩色）
Coming to England to appear in the "Cleopatra" Ballet at Covent Garden :M. Nijinsky.
/1911/46.9×38.0/Print hand colored (AP-238)

◆ルードヴィヒ・カイナーによる『バレエ・リュス』版画集
（版画集／1913年／クルト・ヴォルフ社／ドイツ、ライプチッヒ）
Rudwig Kainer Ballet Russe(No. 133/230)/1913/Kurt Wolff Editeur/Leipzig/52.3×38.8 (AB-31)

◆バレエ・リュスによって上演されたクロード・ドビュッシー音楽による『牧神の午後』の記事
（記事／1913年／英国／プリント手彩色）
Debussy's "L'Apre+s-Midii d'un Faune" Showing M. Nijinsky:
Due for Presentation by Russian Ballet on Monday Last The Russian Ballet arranget to produce "L'Apre+s-Midii d'un Faune" -music by Claude Debussy "book" by Stephane Mallarme-at Covent Garden/on Monday evening last Feb.17.1913/46.1×38.1
/print hand colored (AP-237)

◆『遊戯』を踊るニジンスキー、カルサヴィナ、ショラー（記事／1913年／フランス／プリント）
M. Nijinsky, Mlle Karsavina. Mlle Schollar dans le "Ballet nouveau" "Jeux"/1913/49.0×39.4/Print (AP-227)

◆『薔薇の精』を踊るニジンスキー（写真／1910年／ゼラチン・シルバー・プリント）
Nijinsky in "Le Spectre de la Rose", Original photograph/1910 / 33.8×28.0/gelatin silver print (PH-0680)

◆セゾン・ニジンスキーのプログラム（プログラム／1914年／ロンドン、ザ・パレス劇場／プリント）
Programme of "Saison Nijinsky",
The Palace Theatre Managing Director Mr Alfred Butt/1914/ENGLAND,London/14.0×24.6/Print (PR-BR-HP-009)

◆ニジンスキーの結婚式後すぐのオリジナル写真（写真／1913年／アルゼンチン、ブエノスアイレス）
W. Nijinsky 's wedding scene both side of page of scrap book (Original)/1913/Argentina, Buenos Aires/17.0×21.5 (PH-0822)

◆セルジュ・ド・ディアギレフのバレエ・リュス公式プログラムより
『シェエラザード』の『金の奴隷』を踊るニジンスキー（プログラム／1916年／表紙：モンテネグロ／米国公演）
Serge De Diaghileff's Ballet Russes (31.5×23.4 p.42), " Nijinsky in Golden Slave"
1916/Montenegro/25.0×32.0(PRBROF-09)